

佛立開導日扇聖人物語 第19回



200th Anniversary
佛立開導日扇聖人◎ご生誕200年顕讃

本門法華宗の本能寺（五大本山の二つ）の貫首（最上の位のお坊さん）の日応師は、「佛立講」は、お祖師さま（日蓮聖人）の教えを正しく守っていないと、激しく批難（気に入らないと不満を言う）したんだ。ここからいろんな問題が起きるんだ。今回は「内紛（仲間同士の争い）と開導聖人の麩屋町之転居」のお話だよ。

内紛と麩屋町への転居

ないぶん ふやちよう てんきよ
佛立講の信者の梶山栄二と石田市太郎はこの本能寺の日応師の態度にとても腹を立てたんだよ。そこで、彼らは日応師を折伏（あやまりを注意し、正しい方向に進ませる）したいと、開導聖人に申し出（意見・希望などをいう）られたんだ。だけど開導聖人は、「とてもあなたの方では歯が立たない（強くて相手にならない）」と止められたんだ。でも、この二人は開導聖人の言うことを聞かずに、日応師の所に折伏に行ってしまうんだ。



梶山と石田の2人は日応師の所に何度も出掛け折伏する内に親しくなり、やがて開導聖人に敵対するようになる

結果は日応師に言い負かされ（言い争って負ける）、悔しい思いをして二人は帰ってくるんだ。そこで今度は、開導聖人に日応師の所に直接行き、折伏して欲しいとお願いされたんだ。しかし、開導聖人は「全く無用（必要ない）なこと」とお叱りになり断わられたんだ。行って話も聞かずに帰るような相手ではないので、「ムダな法論（仏教の教えについての話し合い）はしない」と開導聖人はお考え

になられたんだね。

この開導聖人のお返事に、二人は「開導聖人は折伏を嫌がり臆病（怖がり）たり、しりごみしたりすること）になられた」と誤解（まちがった理解や解釈）し、もう開導聖人にお願ひせず、自分たちだけで日応師を折伏しようとしたんだね。

梶山と石田の二人は、何度か日応師の所に折伏に出掛けてる内に、次第に日応師と親しくなり、逆に開導聖人に対して敵対（敵としてはむかうこと）するようになってしまったんだ。そして「佛立講」をやめて、本能寺の信者となり、日応師と一緒に開導聖人のご奉公の邪魔をするようになるんだ。



開導聖人に提出された懺悔状

くようになったんだ。そのために数百名のご信者が佛立講をやめてしまったんだよ。彼らの目的は、開導聖人を宥清寺から追い出し、引退させることであつたんだ。明治十六年十一月、十七の組を代表して七名が、開導聖人の身の安全と、佛立講の将来を心配し、開導聖人にひとまず宥清寺を出て引退されるようお願いしたんだ。すると開導聖人は、佛立講の将来のためにこの七名の要望を受けることにしたんだ。

お弟子の御牧現喜師（第二世日開上人）に宥清寺の住職を任せ、以前から借りられていた麩屋町の家（現在の長松寺）にご家族と共に移られたんだよ。

その後、本能寺に移った梶山栄二は、自分のあやまりに気づき心からお懺悔（悪い行いを反省し許してもらえよう）お願いする）したので、佛立講に戻ることが許されたんだ。また十七組の代表者たちも、開導聖人に対する失礼な態度をお懺悔し、信心の改良を誓われたんだ。

開導聖人は、佛立講の内部から出たこの「内紛事件」も乗り越えられ、麩屋町に移られてからも今まで以上に佛立講の発展を願ひ、ご信者方の教導にあたられるんだよ。



お弟子の御牧現喜師に宥清寺の住職を任せ、以前から借りられていた下京麩屋町の家（現、長松寺）にご家族と共に移られた。



開導聖人のご遺品、書の御道具類（義天寺蔵）